

本庁舎の建て替えに関する市民からのご意見

3-1 市民からのご意見

本庁舎建て替えに関して平成30年4月から平成31年3月15日までにホームページ等で寄せられた市民からのご意見は下記のとおり（パブリックコメントとして取り扱ったものを除く）。

① 庁舎のコンセプト・デザイン等について

- 新庁舎は杜の都らしいものに ○アートを取り入れる
- 庁舎の正面には、仙台を代表するエンブレムを設置してほしい
- トロント市役所のように、世界中から観光客が訪れる、観光の目玉とするような発想で建て替えを検討してみてもどうか

② 立地や整備方針に関すること

- 新庁舎は二日町駐車場、北庁舎を解体した跡地に建設すべき
- 現在の本庁舎高層棟の位置に建設し、工事の際の仮移転は売却した市立病院にすべき
- 青葉区役所も集約すべき ○定禅寺通・一番町通への地下通路を設ける
- 仮庁舎は無くすべきで今後も作るべきでない
- 2棟にはすべきでない
- 13階建て・2棟案が建設コスト、利便性、景観性などから良い
- 現在の北側駐車場を解体し16階の新庁舎を建設。現庁舎に12階の青葉区役所を建設
- 19階で1棟の計画が良い ○19階建てを2つ造ってはどうか
- 20階建て・地下3階・屋上にはヘリポートを。耐久性にすぐれた庁舎を望む
- 思い切って東北中から人を集め、ランドマークとなる50～70階建ての庁舎が良い
- 新市庁舎は高層にし、地下も深く掘るべき

③ 機能に関すること

- 新庁舎には、市民が気楽に立ち寄ることの出来る場所、市の取組を紹介するコーナー、学生が歌など発表する場を設けてほしい
- 物産館をつくるべき ○銀行は置くべきでない
- 最上階は市民が集える展望ルームの設置を
- 長距離バス・観光バスの発着場を設置する
- 民間の飲食店・カフェの公募予定があれば教えてほしい
- 1階・2階にガス・水道のショップを ○1階～5階はすべてテナントを入れる

④ その他のご意見

- 市営駐車場と北庁舎は併せて売却したらどうか。
- 市債は発行せず、無駄な土地を売るべき。
- 寄付を募り、一部を建て替え費用にし、残り東日本大震災の慰霊塔を作っては。
- 建替には反対。どうしても建替をするのであれば、職員数を削減し、最低限の庁舎とすべき。
- 噴水を残してほしい。

3-2 仙台ラウンドテーブルにおけるご意見（抜粋）

平成31年1月27日に開催した第2回仙台ラウンドテーブル「みんなの市役所を模索する」に寄せられたご意見のうち、本庁舎建替事業に関するものは下記のとおり。

テーブルA 様々な市民の視点から、大きな都市ビジョンを考える。

A-1 それぞれが思う都市ビジョンを共有し、大きな都市ビジョンを考える

- かつては市電が上手く都心部をネットワークしその外延部に施設が配置されていたが、市電が無くなった際にネットワークが壊れてしまった。市電廃止後、都市空間をどうネットワークするかというビジョンがほしい。
- 健康都市宣言や梅田川の清掃運動、スパイクタイヤ等の市民運動があった。最初は行政の掛け声だったが、市民が参加して運動になった。仙台には、それらの誇るべき市民活動の歴史やビジョンがある。
- 仙台市の施策（ポイ捨て防止条例）のプロセスなど、市民参加で魅力的なものがあるが、あまり知られていない。そういった市民活動の先に仙台のシティホールがあるのではないか。
- 仙台は福祉のまちづくりの発祥の地である。「障害当事者を主体とした福祉の街づくりの歴史」をどう継承し本庁舎に活かしていくかが私たちのビジョンだと言える。
- 今の総合計画は課題解決型のビジョンであり、なりたい未来が見えないビジョンとなっている。都市ビジョンはその先が見える話でなければならない。
- 新たな産業につながるような次の仙台の都市像もあるのではないか。基本構想にもある「市民力」「市民協働」をどう活かしていくか。そのために市役所本庁舎はどうあるべきか、といった流れで考えるべき。
- 仙台のアイデンティティは「城下町」だと思うが、残念ながら空襲で何も残らなかった。目に見えるものが無くなったからと言って、市民の心からすべてが失われたわけではない。
- 現在の市庁舎が周りの地域に価値を創造しているか確認すべき。
- 外国に行くとシティホールはそのまちのシンボルであるが、日本では役場というイメージでしかない。仙台のシンボルであるようなシティホールを実現すべき。

A-2 みんなで共有した都市ビジョンをどう位置づけるかをみんなで考える

- 都市ビジョンとは「こういことを大事にしながら街をつくってゆく」ことで、施策の拠り所となるものだと思う。ビジョンの策定に市民参加プロセスを踏み共有することで、より効果が大きくなる。プロセスの作り方がポイントと考える。
- ビジョンが明確であれば複合的に解決できるが、無ければ単発の課題解決しかできない。現在示されている計画やコンセプトにはそこまでの力強さが無いことが問題と考える。
- 仙台市は「土地を持つ」という意味で仙台市内の最大の大家・地主でもある。まちづくりのプレイヤーとしても大きな力を持っているので、この機会に解決できることも多い。現実突き付けられている問題を正面から議論するプロセスが重要と考える。
- 本庁舎建替基本構想で「都心をどうしていくのか」にほとんど触れられていないのは問題と考える。複合的に課題解決できるはずなのに、そうならないことを危惧している。
- 市民力を生かしたまちづくりが重要。現在では市民力を抜きにして考えるのは無理だと思う。市役所本庁舎も行政のヘッドクォーターとしてだけの機能で作ってしまうと、市民との接点はほとんどなくなってしまう。市民広場は市民活動の拠点であるし、市民力を生かす視点で市役所建替を切り口とした都市ビジョンを考えることが重要と考える。
- 基本構想や基本計画では新市庁舎がまちの中でどういう役割を果たすのか白紙の状態だと思うが、そのような中で設計者が庁舎をつくっていくことになる。仙台市の側に明確なビジョンが無いままに中心部の核をなす一角がつかれてしまうと、仙台の中心市街地が大きな都市ビジョンの一部を形成する大きな機会を失ってしまうのではないか。

テーブルB 「これからの仙台を担う仕組み」を公共・市民協働の側面から考える。

B-1 市民協働・新しい公共の在り方から「公共を担う仕組み」を考える

- 地域づくり、コミュニティーづくりが仙台市の将来や人づくりを考えるうえで基礎になるのではないかな。
- 大きなコミュニティーを一気に作るうとしても無理な話で、ブドウの房のように小さいつながりが大事。
- 住民とその地域に拠点を構えている行政と一緒に手を取りながら、抱えている課題を市民協働で解決できる部分がたくさんある。
- 市役所の中にも協働コーディネーターが必要だし、民間にも役所と企業をつなぐコーディネーターが必要と考える。
- 市民協働で進める場を新庁舎に構築する場合、忙しい市役所の人たちが市民の話を聞くという時間を取れるのか気になる。
- 地域の中にプロはたくさん住んでいると思うが、力を発揮できない状況にある。リタイアした後も地域に貢献したいという思いがある方も多し。地域に住んでいるプロの方がつながり、コーディネートされることで、新しい地域像が見えてくると考える。
- 市民ホールの的なものを用意しただけでは期待している機能は発揮できないと思う。場を設けるだけでなく、それにふさわしいコーディネーターが必要である。
- ラウンドテーブルの企画の最初に「市役所」と呼ばず、「シティホール」と呼ぼうという結論になった。市役所は行政のための事務所だが、シティホールは市民と議会、行政と議会、行政と市民それぞれが交わる場であるべき。

B-2 「市民と議会と行政」の関係から「公共を担う仕組み」を考える

- 町内会には色々な考えの人がおり、支持政党も異なるので議員とどう付き合うかは難しい。行政の縦割りの関係もあり、町内会が行政とどのように対応していくかも悩み。
- 福祉や建設、教育を実際に経験したという専門性が議員にも必要ではないか。市民のクレームや要望を直接届けるのではなく、間に入って調整するのも議員に課せられた役割ではないかと考える。
- 議会も多様化が必要。仙台市は女性議員も多いが、地方へ行くと旧態依然とした議会も多い。障害を持った方や、年齢、性別等、様々な方がいる環境が必要と考える。
- 関係性を変えていくことが大切。頼む、頼まれる関係から、一緒に問題を考える協働のあり方を市民の力として成熟させていくべき。
- 暮らしの中から課題を見つけて何とかしようと活動しているNPOと、政務活動費が使える議員が一緒になって共同研究や調査をするようなことができないかと考える。
また、事業が決まる前の段階で市民や議員も交えて協議する場が少ないと感じている。
- 市庁舎を作るプロセスに意味がある。議員、若者、障害を持った方、マイノリティーの方など、様々な人が議論をして皆で考えることが大切と考える。

テーブルC 「基本計画検討委員会資料」をレビューし、様々な市民目線を網羅する。

C-1 既存本庁舎の価値を議論し、建替え手順や建物配置・規模・スカイラインの構成を考える

- 既存建物の構成は、低層部のボリューム、ファサード、広場などからみても価値は高いと思える。
- 既存建物は、法的、技術的なクリア、そしてかなりの愛情・使い続ける意思がないと持続できない。
- 既存本庁舎は建築のBCS賞を受賞している。この建物の評価や50年の間ずっと仙台の顔として建っていた時間の重さを振り返るだけでも価値がある。残念ながら、新しく建物をつくるという方針になった。それは既存をうまく活かす方法・共有の視点が欠けていたためではないか。
- 市民が知らないまま既存庁舎が解体されてしまう前に、既存庁舎をどうとらえるべきか、見学会を開催するなど、既存庁舎をきちんと見る機会が必要ではないか。
- 市民広場に立つと、市庁舎と県庁の低層棟がそろうと、とてもきれいに見える。景観は人間の目から、もっと広い視点まで考えるべき。
- 人間の視野はどこまで見えているかを理解したうえで、景観に配慮することが重要と考える。
- 10年、20年、30年後、高層ビルがもっと増えた時にスカイラインのあり方は変わる。その時の市庁舎のあり方と姿も想像しておく必要がある。
- 空地・道ということを中心に計画を行ってほしい。仙台市役所の建替えでも空地を検討しているが、それは建物の配置からみたものである。一番町との関係、バス停の配置などがどのように整備されるかも関係する。また、空地利用という点で平置き駐車場を将来の建替地とするのはナンセンスと考える。

C-2 低層部を中心にレビューし、低層部の必要機能を考える

- 資料でパターンの比較をしているが、検討範囲が狭いのではないかな。市役所機能を考えたときに定禅寺通、西公園くらいまで見て、メディアテーク、建替を控えた県民会館をどうするか、音楽ホールの計画もある。今後、まち全体をどうやってローリングさせていくかを視野に入れないといけな。
- 低層部については東北という地域性から雨天時、降雪時等の検討が必要。そのため、室内の広場・屋内としての大空間が良い。外で使う市民広場に対して内部で使う低層機能をぜひ作ってほしい。
- 今回の建替事業のメインテーマとして「市民中心の市役所」という言葉が掲げられている。それは何かというと、「市民中心の市政が行われる場」ではないかと思う。新しい仙台市役所には「市民と市政をつなぐ場」が最も前面にあることが重要と考える。
- 最近の市役所に必ずあるのは市民協働交流機能とシティプロモーション機能で、これらの機能が低層部を構成するというのが一般的と考える。
- 1階の行きやすい場所に、多種多様なNPOや市民活動の交流・活動・協働スペースが集約してあるという形になるのが良いのではないかな。
- 一番町から時計が見えたり、あるいは昔のタワーであったりという思い出から、何かしらのアイストップが欲しいという方は多いのではないかな。建物としての正面性は、大きなスケールで見て周辺の緑地や県庁、議会棟、合同庁舎まで含めて考える必要がある。